

[参考事項]

成果情報名：ニホンナシの導入品種の検討

研究機関名 果樹試験場 総務企画室 天王分場班
担当者 石崎理彩・長澤正士・他6名

[要約]

「早優利」は「幸水」と収穫期が重なり、小玉で酸度が高く食味が劣る。「豊華」も黒星病抵抗性品種であるが、酸度が高く食味が劣る。

「松島」「新生」は「秋泉」よりも開花始期が遅いため、「秋泉」の受粉樹としては不適當である。

[キーワード]

ニホンナシ・早生種・黒星病抵抗性品種・受粉樹

[普及対象範囲]

県内のニホンナシ生産者

[ねらい]

本県において適応性の高い品種を選抜するため、収穫期が「幸水」より早い「早優利」と黒星病抵抗性品種の「豊華」について検討する。また、「松島」「新生」については「秋泉」の受粉樹としての適性を明らかにする。

[成果の内容及び特徴]

- 1 「早優利」の収穫期は8月下旬で「幸水」と一部重なるほか、果実重は210g程度と「幸水」より小玉で、さらに、酸度が高く食味が劣ることから、本県での適応性は低い（表1）。
- 2 「豊華」は、収穫期が10月下旬で平均果実重は570g程度である。酸度は同時期に収穫される「あきづき」「秋泉」より高い（表1、2）。黒星病抵抗品種であるが、酸度が高く食味が劣るため、本県での適応性は低い。
- 3 「松島」「新生」の開花始期は「秋泉」より2～3日程度遅く、満開期は「秋泉」と同じであるため、受粉樹としては不適當である（表2）。

[成果の活用上の留意点]

- 1 本成果は、砂丘未熟土に植栽され、マメナシを台木とした樹をジョイント栽培して得られた成果である。

[具体的なデータ等]

表1 「早優利」「豊華」の果実品質 (2020~2022) ^z

品種名	果重 (g)	縦径 (cm)	横径 (cm)	地色 (c.c.)	硬度 (lb)	糖度 (Brix)	リンゴ酸 (g/100ml)	収穫期
早優利	210.5±21.4	6.0	7.6	4.1	5.8	13.9±0.3	0.171±0.014	8/20-9/1
豊華	569.6±13.7	10.0	10.4	4.6	4.6	13.1±0.1	0.179±0.018	10/21-10/26
幸水	335.5±10.3	7.3	8.9	4.4	5.8	12.6±0.2	0.066±0.003	8/26-9/19
豊水	484.4±15.4	8.7	10.0	4.3	5.3	12.3±0.3	0.147±0.010	9/19-10/5
あきづき	393.0±42.2	8.0	9.3	4.5	4.5	13.1±0.2	0.120±0.009	9/25-10/10
秋泉	534.4±54.7	9.6	10.1	4.7	5.1	13.8±0.1	0.079±0.003	10/1-10/17

^z 果重、糖度、リンゴ酸は平均値±標準誤差で表記

表2 「松島」「新生」「秋泉」の開花時期 (2019~2022)

	調査年	開花期		
		開花始期	満開期	落花期
松島	2019	4月28日	5月1日	5月7日
	2020	4月20日	4月26日	5月7日
	2021	4月17日	4月22日	5月1日
	2022	4月24日	4月27日	5月7日
	平均	4月22日	4月26日	5月5日
新生	2019	4月28日	5月1日	5月6日
	2020	4月25日	4月28日	5月5日
	2021	4月17日	4月22日	4月30日
	2022	4月22日	4月26日	5月5日
	平均	4月23日	4月26日	5月4日
秋泉	2019	4月24日	4月29日	5月6日
	2020	4月19日	4月27日	5月4日
	2021	4月17日	4月23日	5月1日
	2022	4月22日	4月26日	5月4日
	平均	4月20日	4月26日	5月3日

[その他]

研究課題名：園地更新や新規参入を促す新たな新たな果樹栽培技術に適応する品種の選抜

研究期間：平成27年度~令和4年度

予算区分：県単

掲載誌等：